廃村で〝縁日〟にぎわい戻る

八頭の柿原集落

川床で食事を楽しむ来場者＝22日、八頭町柿原

2006年に廃村となった八頭町の柿原集落で、村のかつてのにぎわいを再現するイベント「柿原縁日」（一般社団法人SENRO主催）が開かれた。音楽グループによる演奏や食事会があり、町内外から多くの来場者が訪れた。23日まで。

八頭高書道部が手掛けた「柿原縁日」の題字を集落内のあちこちで掲げ、お祭りムードを演出した。集落脇の川には、予約制の食事会場「川床」が登場。古民家の敷地内にも飲食ブースを設け、近くの森の中に音楽ライブの特設会場を設置するなどさまざまな方法で廃村を楽しんだ。

農山村の活性化に取り組む同町の一般社団法人SENRO（西村昭二代表）が2年前から毎年開催。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、来場者に検温とマスクの着用、連絡先の記入を呼び掛けた。

友人と訪れた鳥取市有富の木下登士彦さん(67)は「毎年楽しみに来ている。昔の原風景が残っていて懐かしさを感じ、心が洗われる」と話していた。（山根由梨）

日本海新聞
令和２年８月２３日（日）掲載
（許可を得て掲載しています）